

2014 年度研究科アンケートの結果について

集計結果

1. 成果・肯定的評価

(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。

「とてもためになった」 63 (59.4%) 「まあまあためになった」 37 (34.9%)

「あまりためにならなかった」 1 (0.9%) 「ほとんどためにならなかった」 0 (0.0%)

(15) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

「とても高まった」 47 (44.3%) 「少し高まった」 29 (27.4%)

「変わらない」 18 (17.0%) 「あまり高まらなかった」 6 (5.7%)

「ほとんど高まらなかった」 1 (0.9%)

※約 95%の院生が、自分のためになったと肯定的に評価しており、教職大学院での学びが肯定的にとらえている。

70%強の院生が教職についての意欲を高めている。特に現職教員院生の 50%強がとても高まったと回答しており、成果が上がっていると言える。「変わらない」という院生も 17%、高まっていないという院生も 6.6%と多くはないが、教職大学院教育を進めていくうえで看過できない実態がある。そうした院生にどのように向き合っていくべきか検討していく必要がある。

2. 課題・否定的評価

(12)-1 教室の設備は適切でしたか。

「適切だった」 18 (17.0%) 「まあまあ適切だった」 59 (55.7%)

「あまり適切ではなかった」 22 (20.8%) 「全く適切ではなかった」 3 (2.8%)

(12)-2 院生室の設備は適切でしたか。

「適切だった」 17 (16.0%) 「まあまあ適切だった」 46 (43.4%)

「あまり適切ではなかった」 29 (27.4%) 「全く適切ではなかった」 10 (9.4%)

(12)-3 大学の設備は適切でしたか。

「適切だった」 13 (12.3%) 「まあまあ適切だった」 50 (47.2%)

「あまり適切ではなかった」 33 (31.1%) 「全く適切ではなかった」 6 (5.7%)

(5) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。

「適切だった」 18 (17.0%) 「まあまあ適切だった」 55 (51.9%)

「あまり適切ではなかった」 31 (29.2%) 「全く適切ではなかった」 2 (1.9%)

(20) 知り合い（後輩や職場の同僚等）から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

「すごく薦める」 29 (27.4%) 「やや薦める」 41 (38.7%)

「どちらともいえない」 25 (23.6%) 「あまり薦めない」 2 (1.9%)

「まったく薦めない」 4 (3.8%)

※昨年度より若干改善された傾向が見られるが、例年と同様に、施設、設備に対する不満がかなりある。大学当局への要望をしながらも、研究科としてできることから改善を常に

図っていく必要がある。自習室のコンピューターは、更新を行うことができた。

時間割編成については、新カリキュラムにおいて、学年配当を見直すなど、院生の意見を踏まえながら、改善を図ったが、まだまだ不満に感じている院生が少なくない。引き続いて検討していく。

知り合いに研究科への入学を薦めるかどうかに関する問いについて、「すごく薦める」という院生が3割しかいないのは、厳しく受け止める必要がある。現職教員院生は5割以上がすごく薦めると回答しているのに対して、学部新卒院生は2割強しか回答していない。全く薦めないという回答者も4名あり、その原因を探ることが必要である。

院生・教員連絡協議会においても意見交換を行ってきており、昨年度よりは院生の理解を得られるようになってきていると感じているが、今後もさらに努力していきたい。

3. カリキュラムについて

(3) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。

「期待以上だった」28 (26.4%) 「まあまあ期待通りだった」65 (61.3%)

「少し期待はずれだった」13 (12.3%) 「全く期待はずれだった」0 (0.0%)

(6) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。

「とてもそう思う」30 (28.3%) 「ややそう思う」64 (60.4%)

「あまりそう思わない」11 (10.4%) 「まったくそう思わない」1 (0.9%)

(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。

「多かった」23 (21.7%) 「ちょうどよかった」62 (58.5%)

「少なかった」17 (16.0%)

(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。

「とても満足」32 (30.2%) 「やや満足」54 (50.9%)

「やや不満」15 (14.2%) 「とても不満」1 (0.9%)

(9) (前期) 共通必修科目 (基礎理論科目) → 教職専門実習 I → (後期) 共通必修科目 (実践演習科目) の授業科目の配置は、学びを深める上で適切でしたか。(M1 ストレートマスター対象)

「とてもそう思う」17 (34.0%) 「ややそう思う」27 (54.0%)

「あまりそう思わない」2 (4.0%) 「全くそう思わない」0 (0.0%)

(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について検討を行うようになっていきますか。

「とてもそう思う」34 (32.1%) 「ややそう思う」66 (62.3%)

「あまりそう思わない」2 (1.9%) 「まったくそう思わない」0 (0%)

※授業内容について、「期待以上だった」という回答が増加し、「少し期待はずれだった」という回答が減少した。「全く期待外れだった」という回答は0名に戻った。昨年度に比べて、院生の期待にかなり応えられるようになったと思われる。特に学校経営力高度化コースでは、6割以上が「期待以上だった」と回答している。逆に、生徒指導力高度化コースで、「少し期待外れだった」という回答が目立っている。

新人教員の養成、スクールリーダーの養成にとってふさわしいものになっているかどうかについて、「とてもそう思う」が増加し、「あまりそう思わない」が減少している。M1の新カリキュラムに対する評価においても、院生はほぼ肯定的に評価しており、教育現場の課題を積極的に取り上げているということについてもほぼ肯定的な評価をしている。カリキュラム改革について一定の成果を上げていると受け止めてよいと思われる。

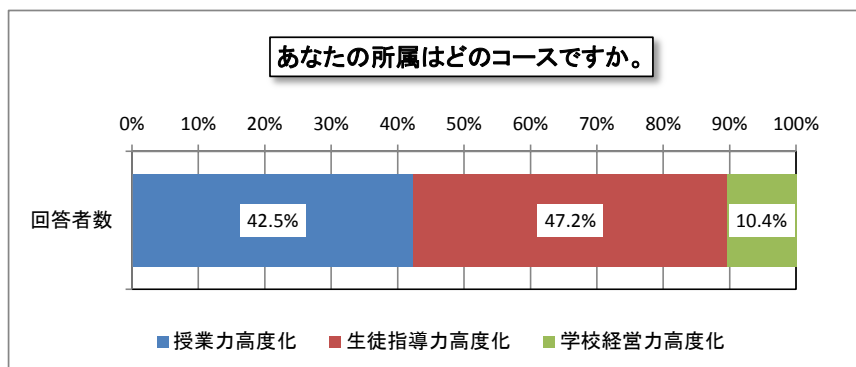
4. 院生への支援体制について

- (10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。
「とてもそう思う」 59 (55.7%) 「ややそう思う」 39 (36.8%)
「あまりそう思わない」 3 (2.8%) 「全くそう思わない」 1 (0.9%)
- (12) 履修指導は適切でしたか。
「適切だった」 36 (34.0%) 「まあまあ適切だった」 52 (49.1%)
「あまり適切ではなかった」 13 (12.3%) 「全く適切ではなかった」 1 (0.9%)
- (13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。
「適切だった」 21 (19.8%) 「まあまあ適切だった」 51 (48.1%)
「あまり適切ではなかった」 16 (15.1%) 「全く適切ではなかった」 2 (1.9%)
- (14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。
「適切だった」 37 (34.9%) 「まあまあ適切だった」 45 (42.5%)
「あまり適切ではなかった」 9 (8.5%) 「全く適切ではなかった」 0 (0.0%)

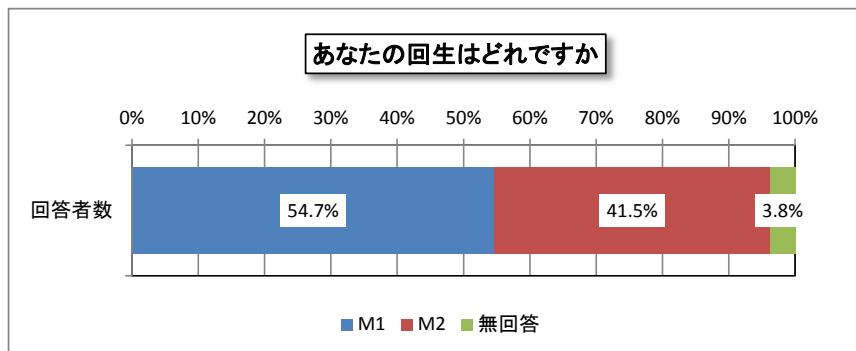
※おおむね肯定的に評価されている。特にゼミ指導に対する評価は高い。これに対して、就職支援、実習支援については、「あまり適切でない」という回答が若干目立つ。その理由を探り、よりきめ細かな支援のあり方を検討する必要がある。

2014年度連合教職実践研究科アンケート(全体)

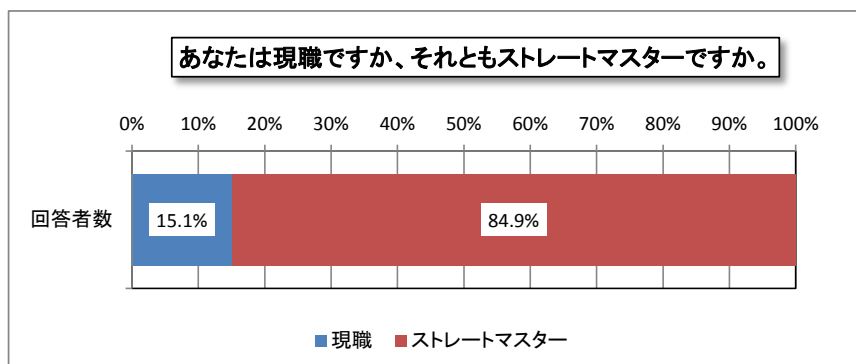
(1) あなたの所属はどのコースですか。



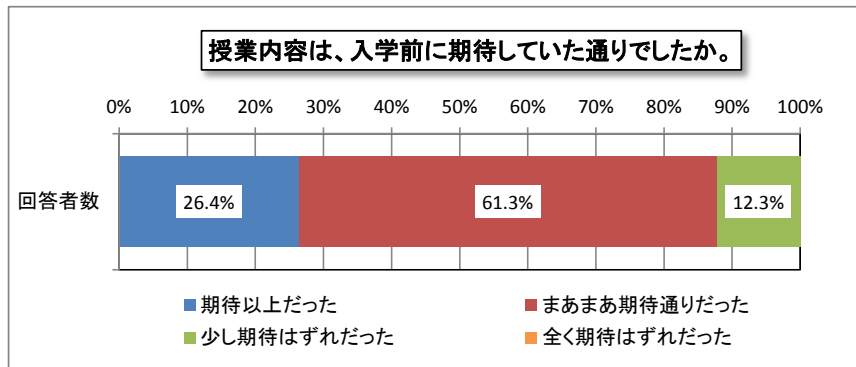
(2) あなたの回生はどれですか。



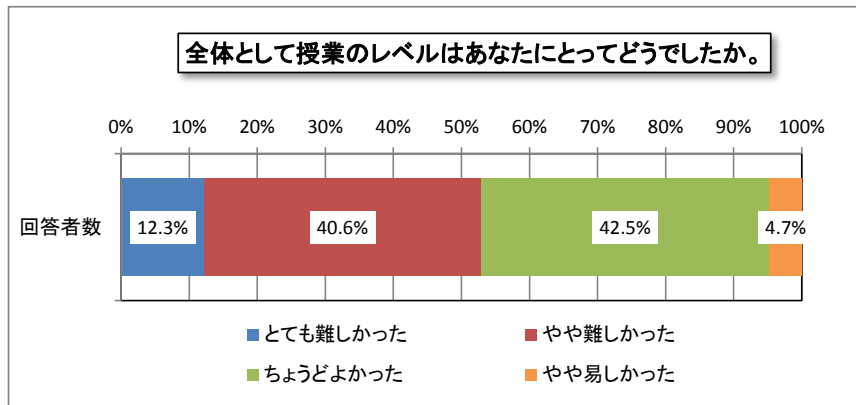
(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



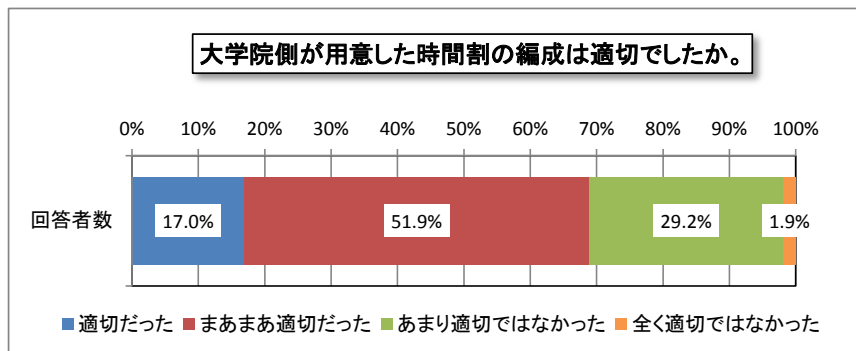
(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



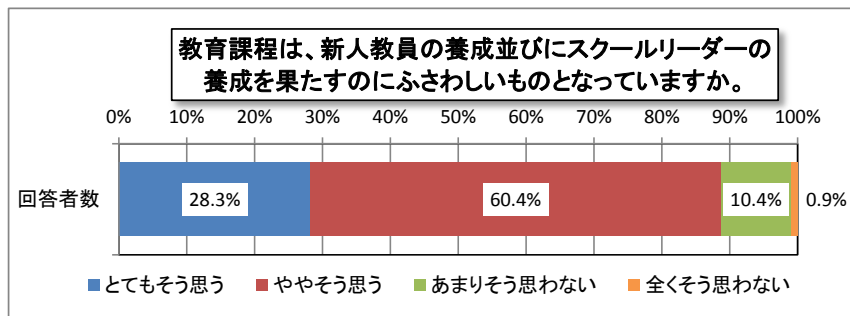
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



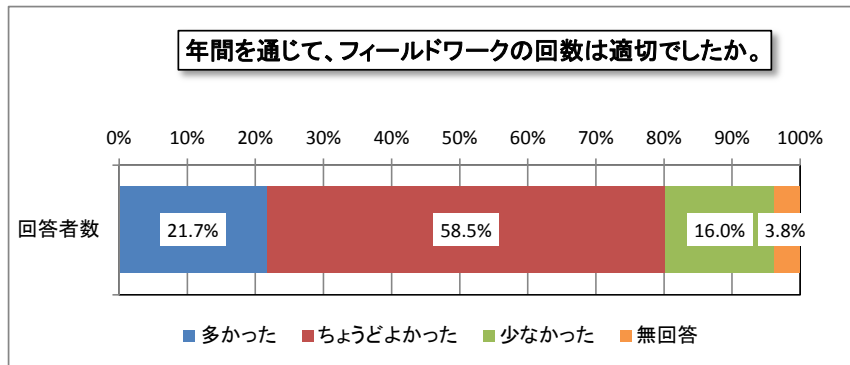
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



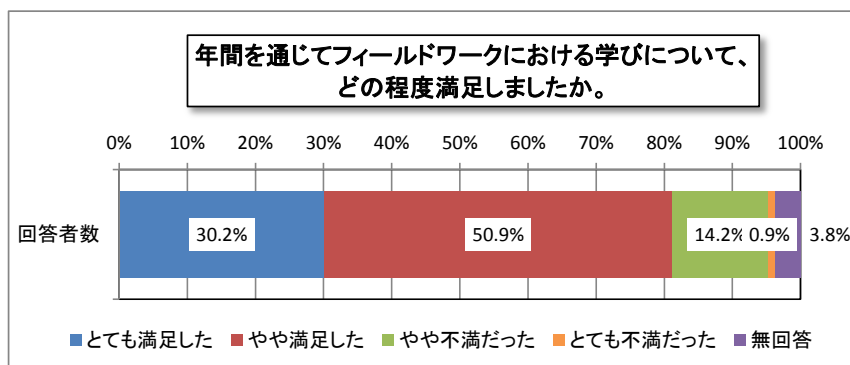
(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



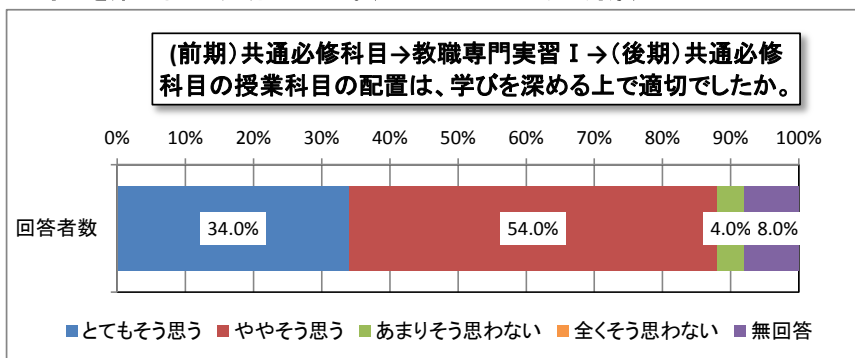
(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。



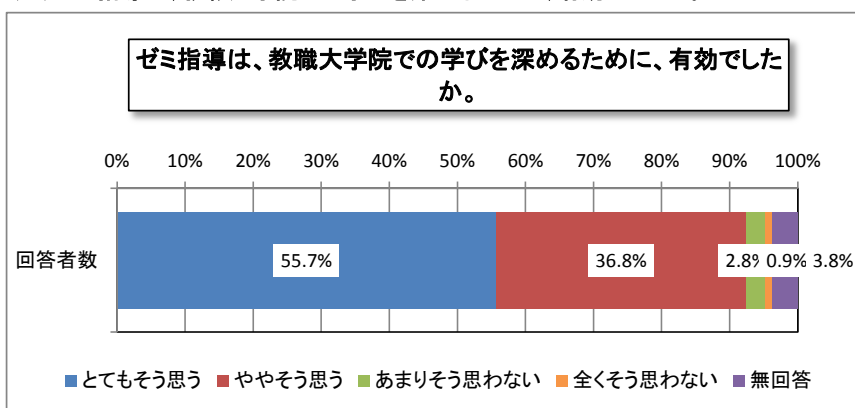
(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。



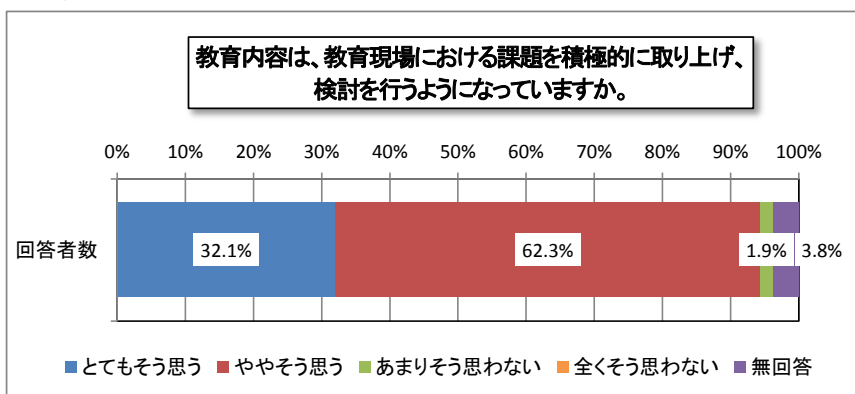
(9) (前期)共通必修科目→教職専門実習 I →(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、
 学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



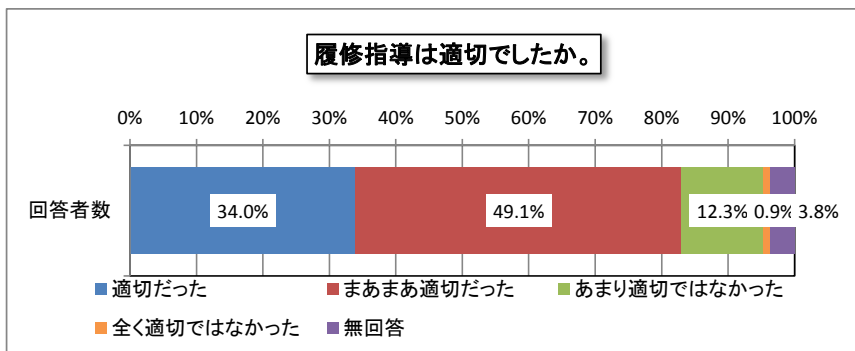
(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。



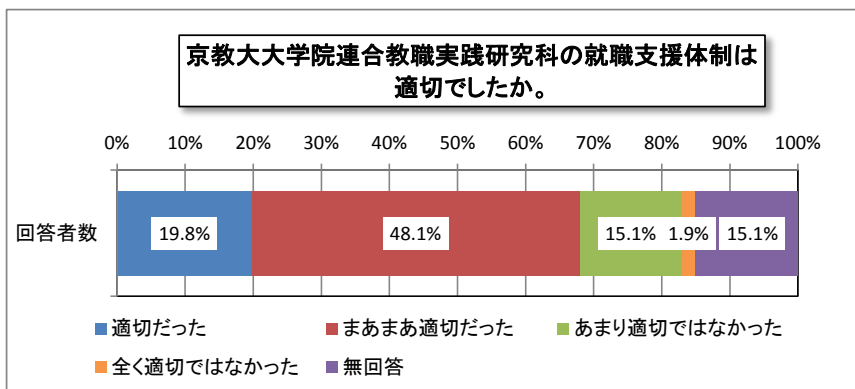
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について
 検討を行うようになっていますか。



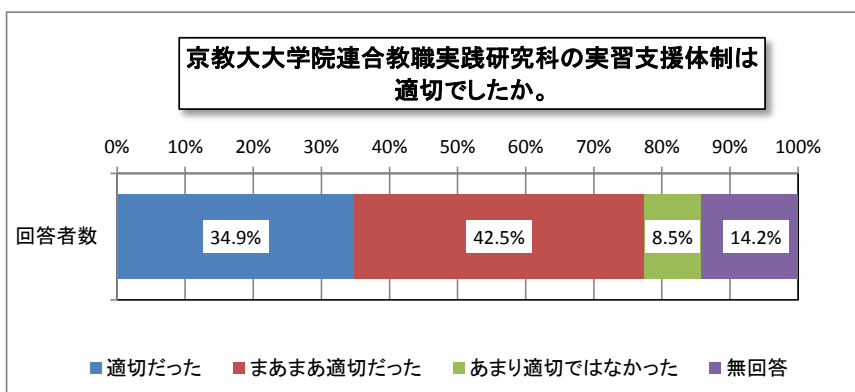
(12) 履修指導は適切でしたか。



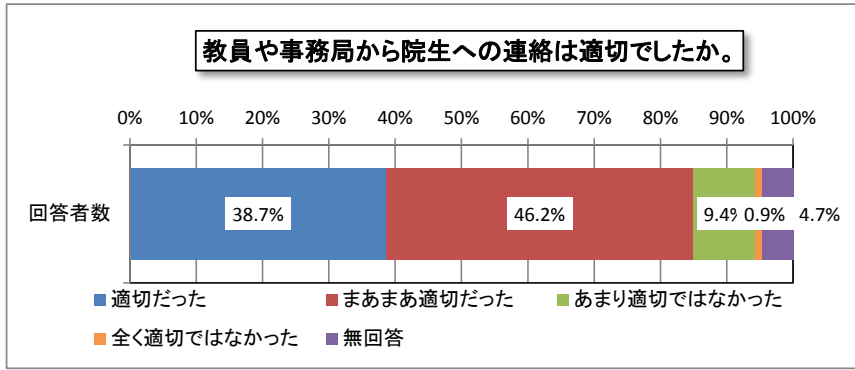
(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。



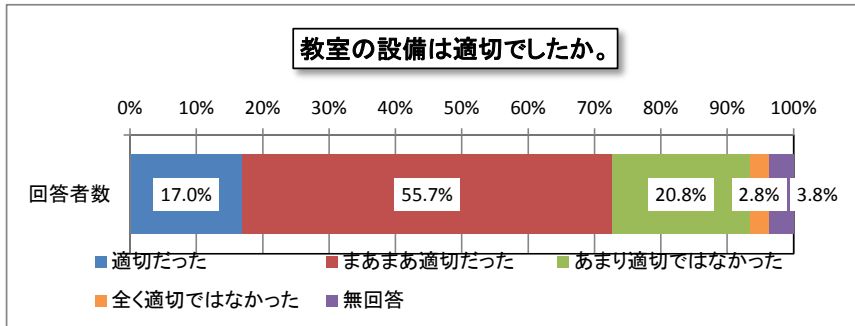
(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。



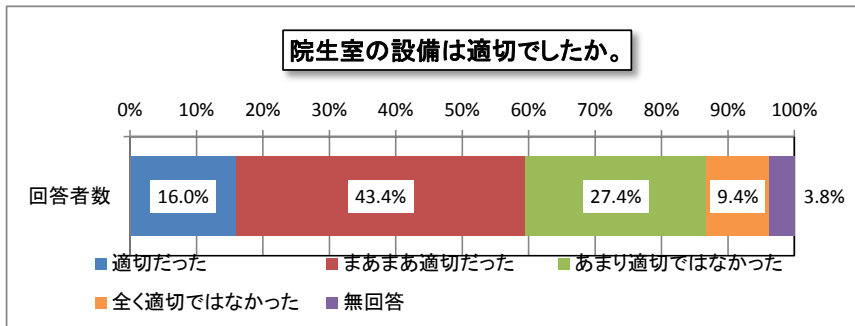
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



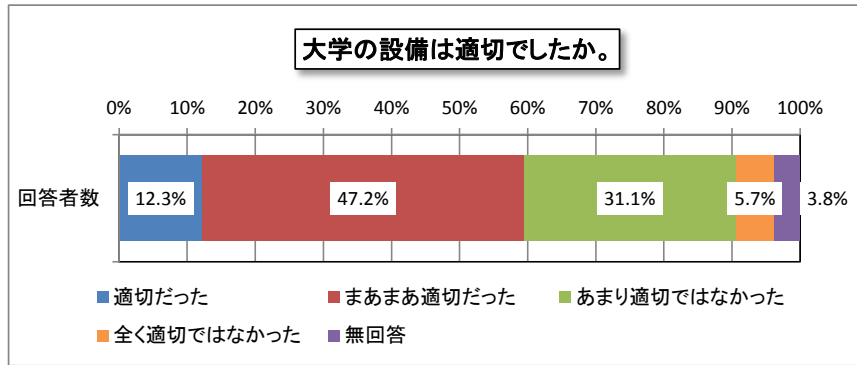
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



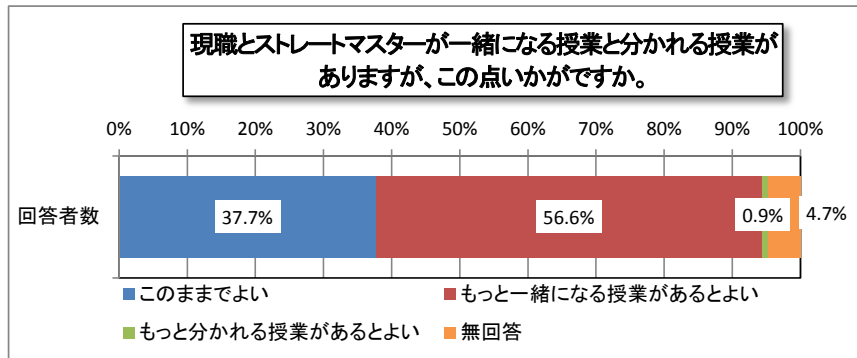
(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。



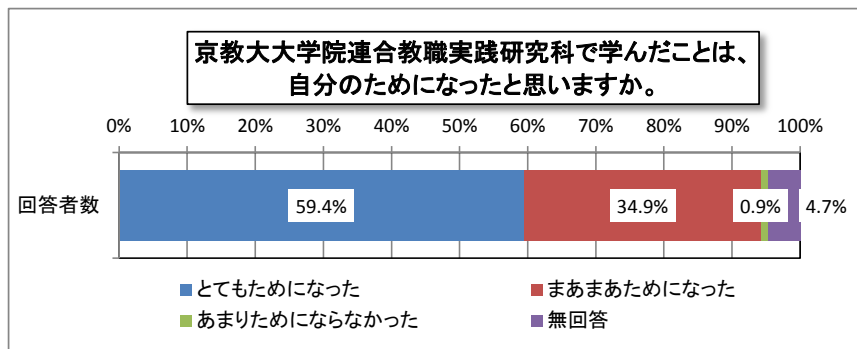
(16-3) 大学の設備は適切でしたか。



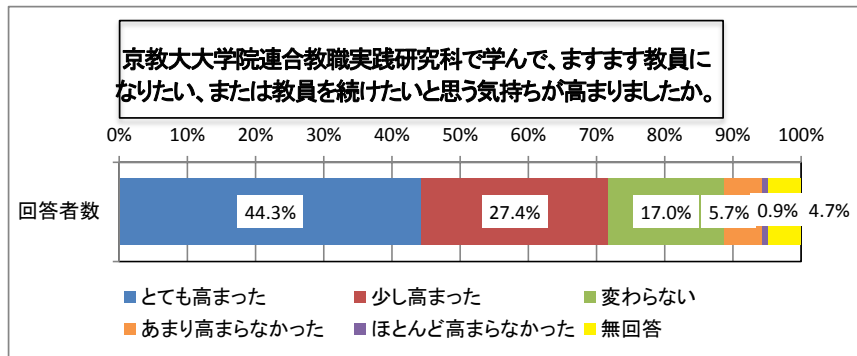
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



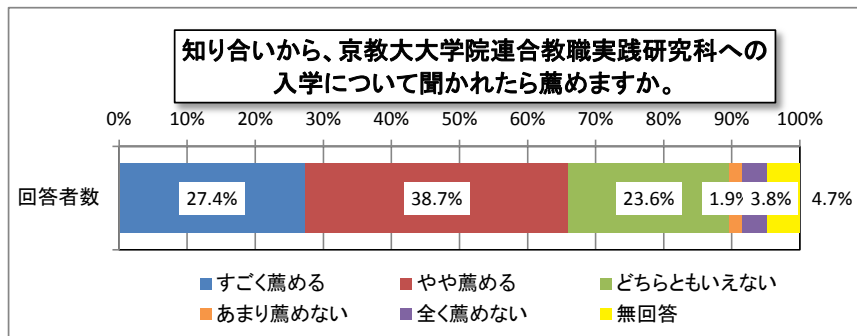
(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、
または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

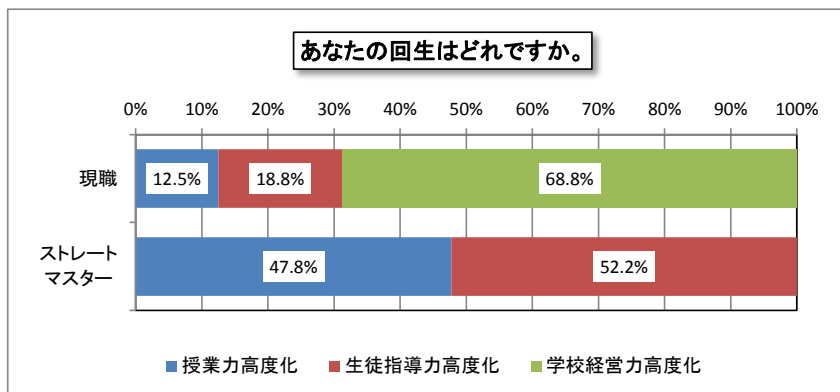


(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への
入学について聞かれたら薦めますか。

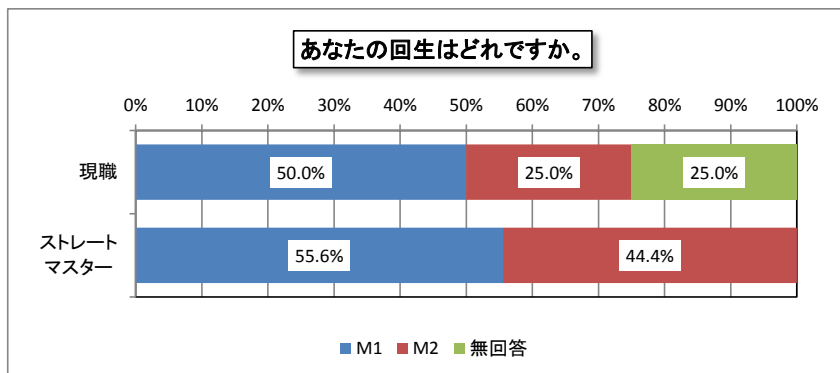


2014年度連合教職実践研究科アンケート(現職・ストレートマスター別)

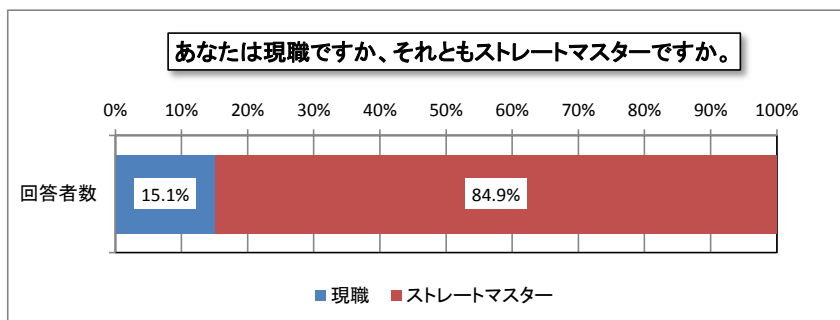
(1) あなたの所属はどのコースですか。



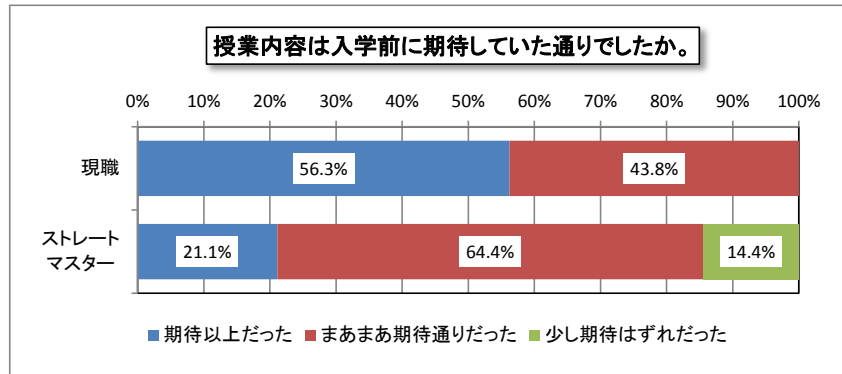
(2) あなたの回生はどれですか。



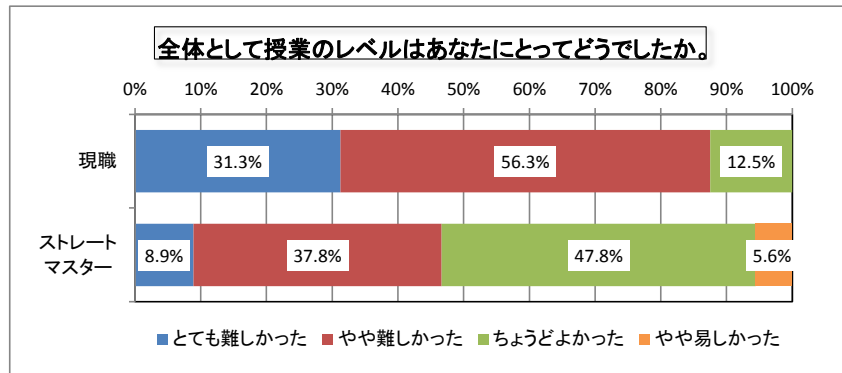
(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



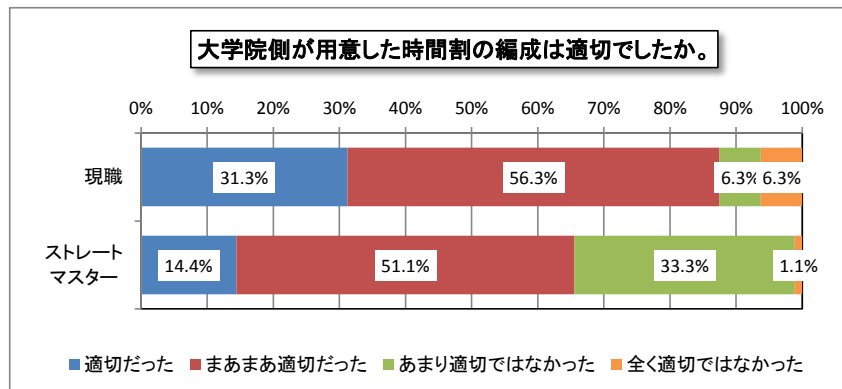
(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



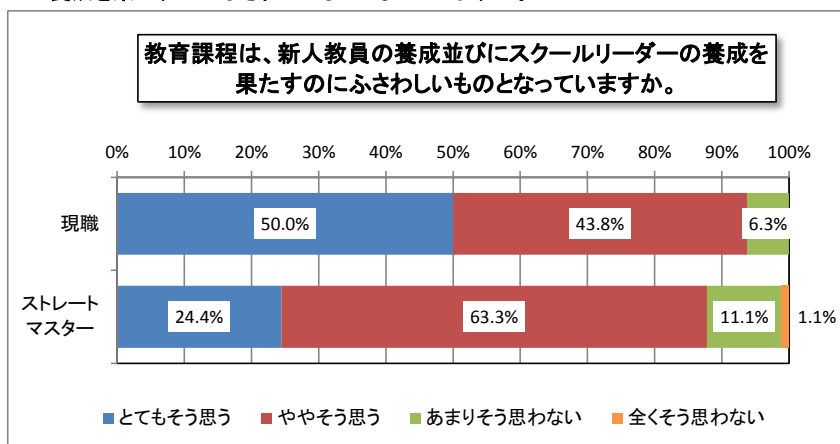
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



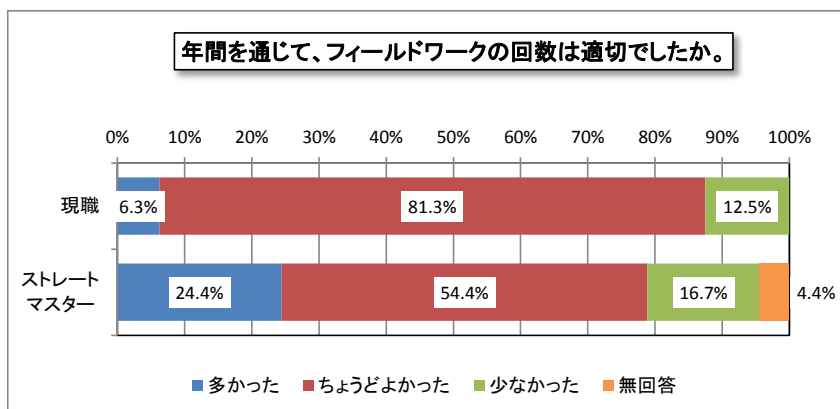
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



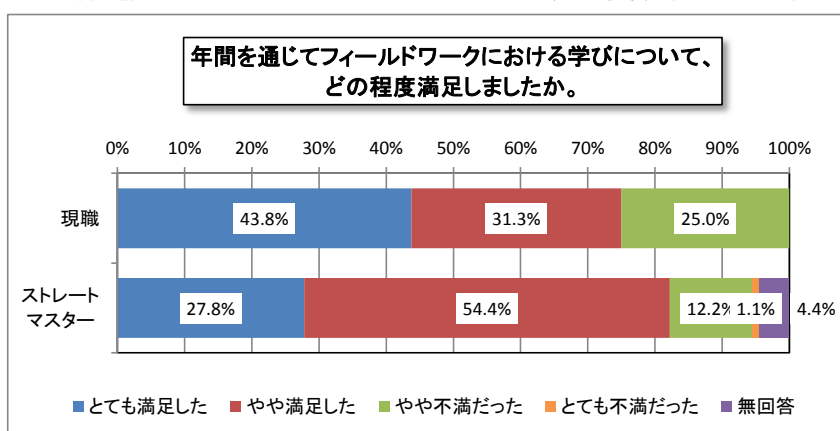
(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



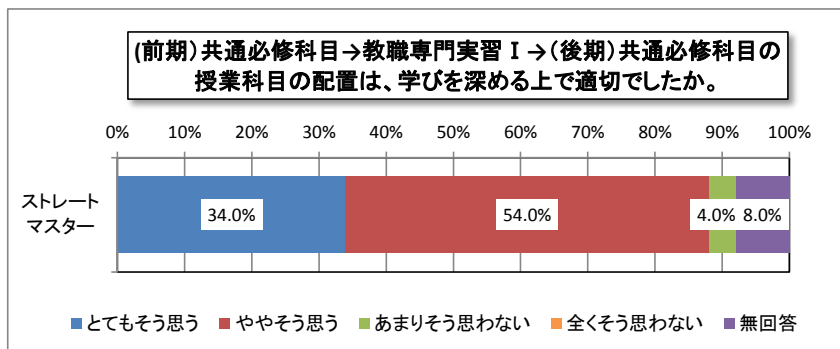
(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。



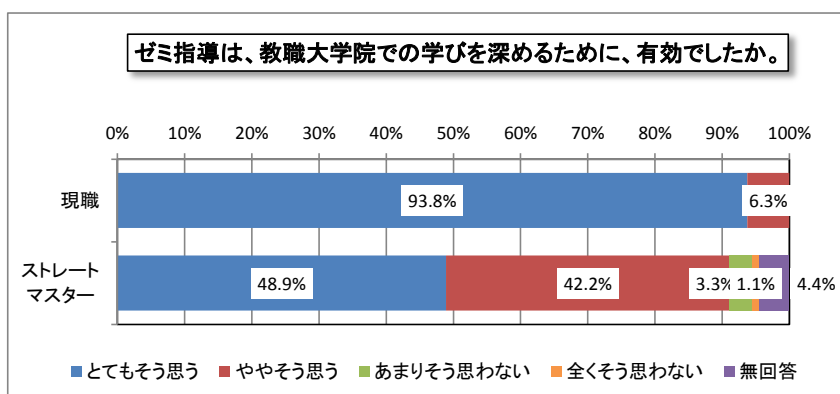
(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。



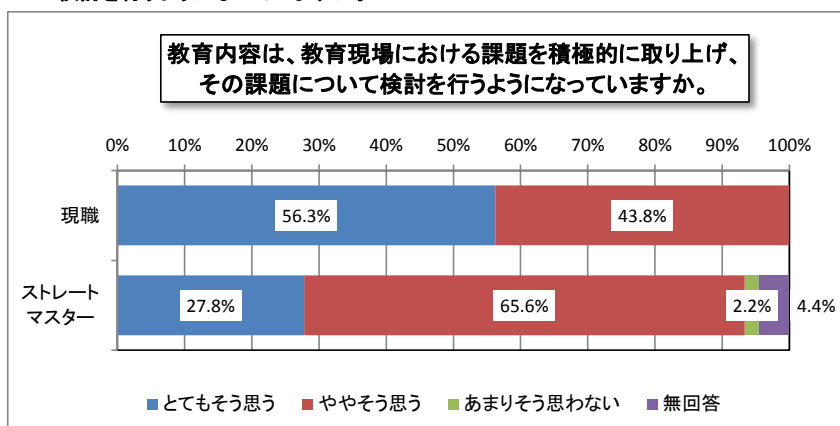
(9) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、
 学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



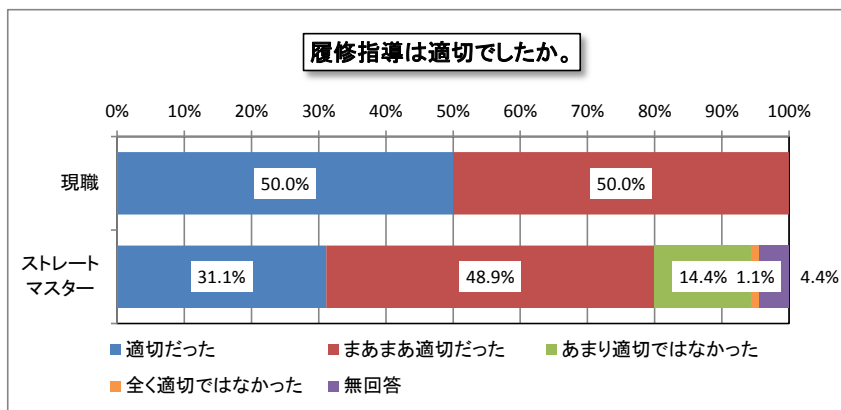
(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。



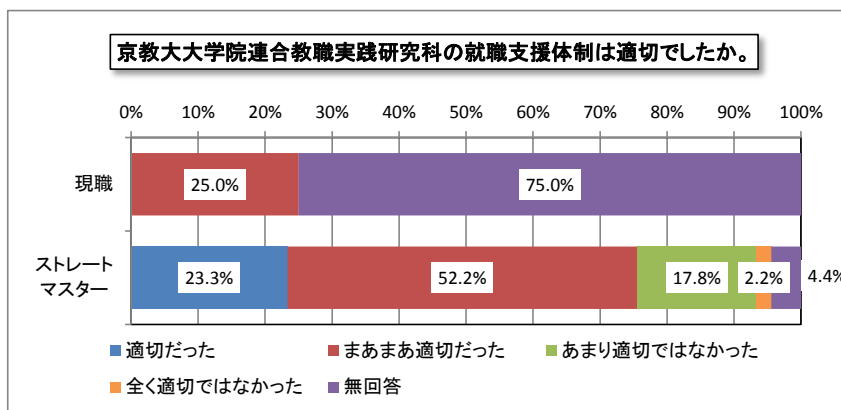
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について
 検討を行うようになっていますか。



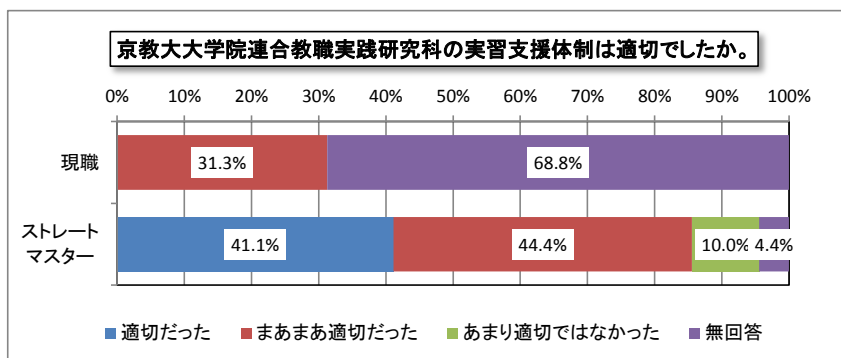
(12) 履修指導は適切でしたか。



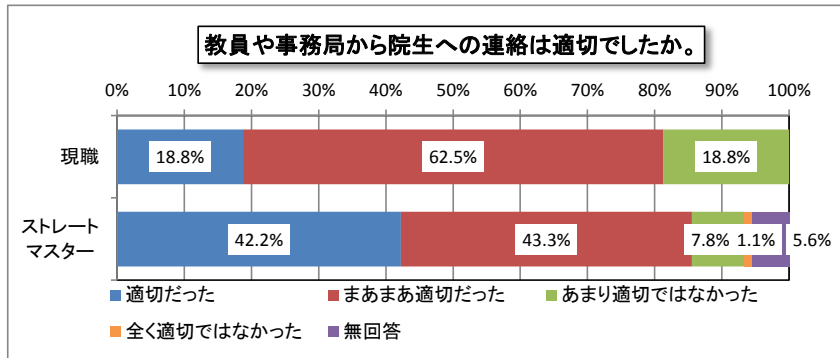
(13) 京教大大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。



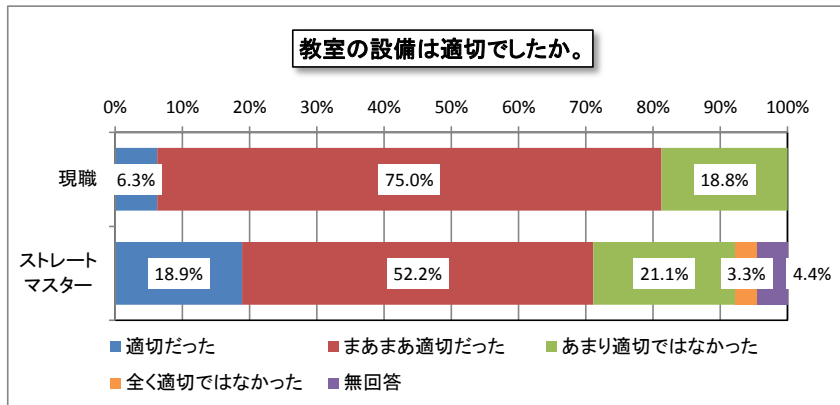
(14) 京教大大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。



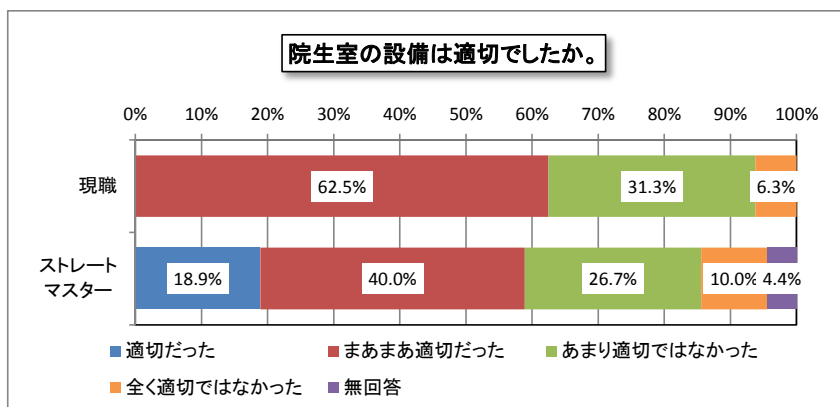
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



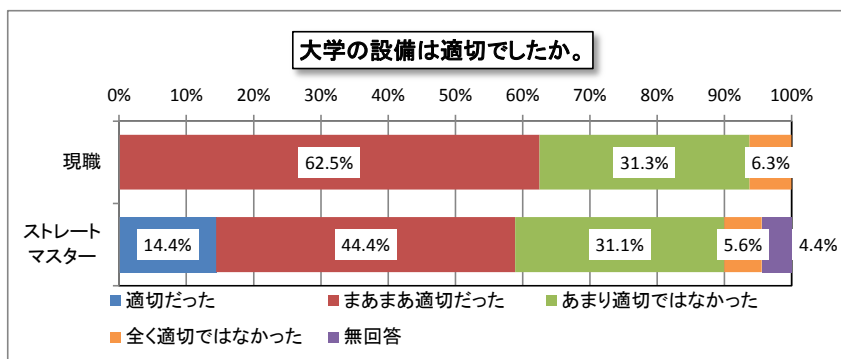
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



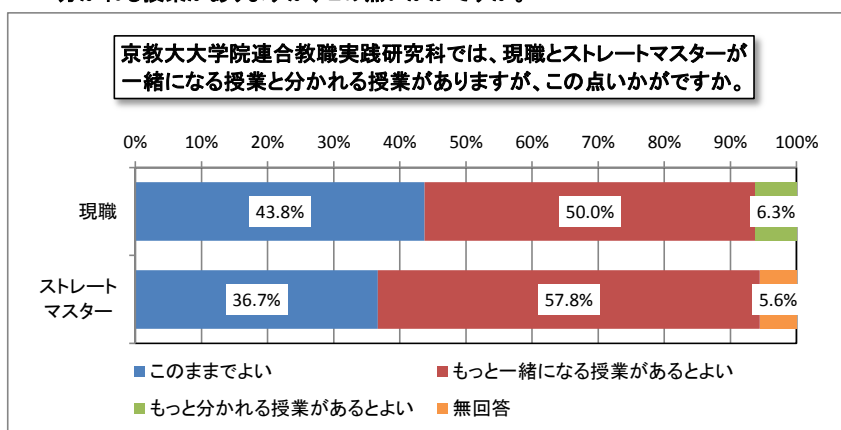
(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。



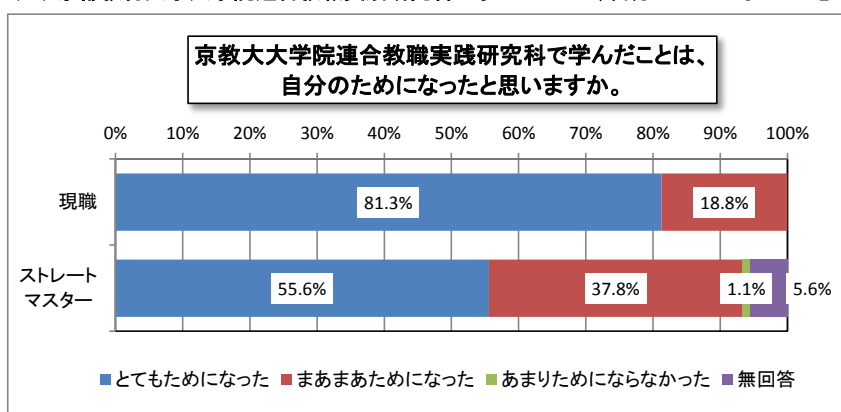
(16-3) 大学の設備は適切でしたか。



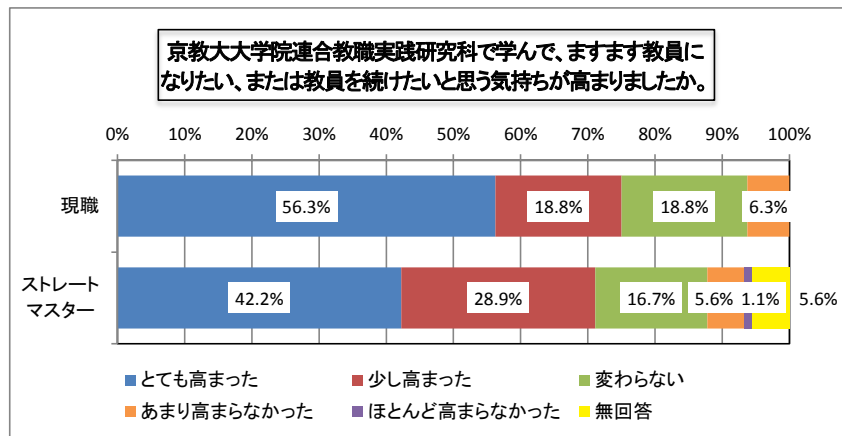
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



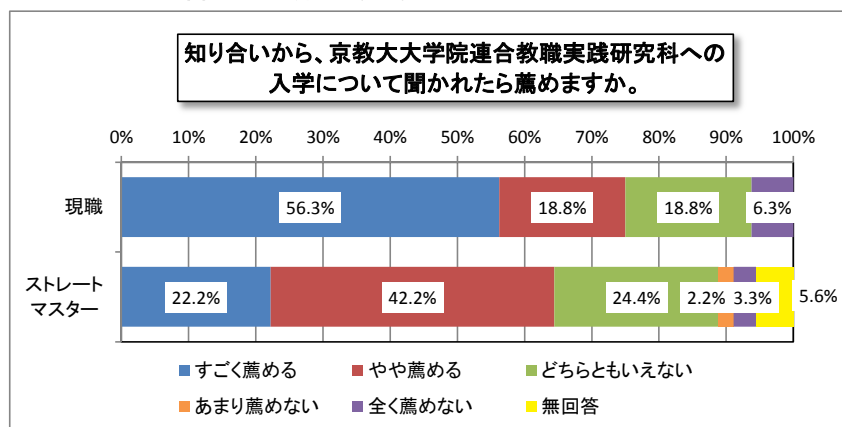
(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。

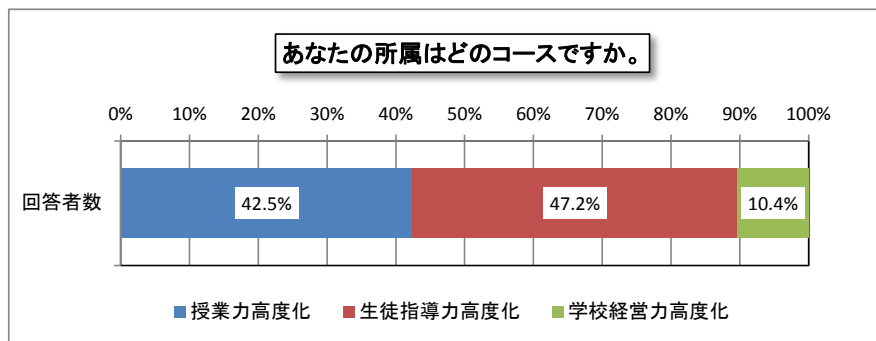


(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

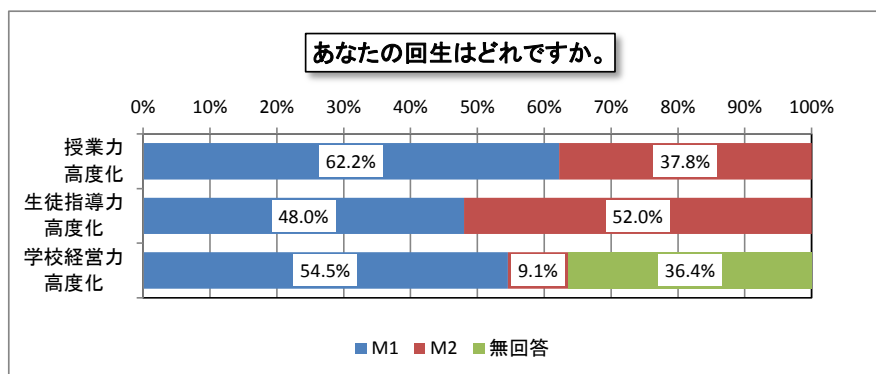


2014年度連合教職実践研究科アンケート(コース別)

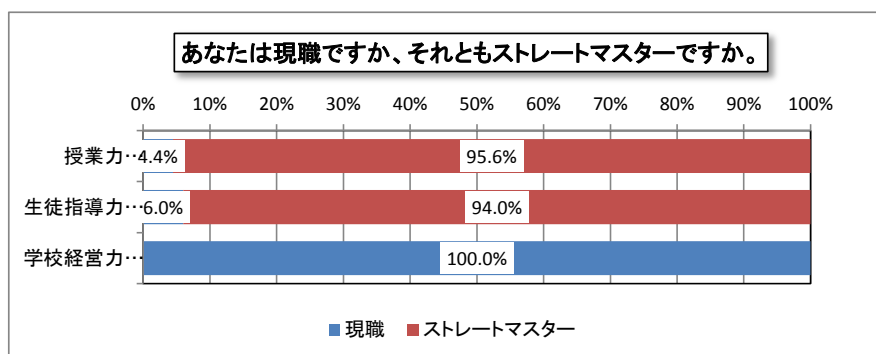
(1) あなたの所属はどのコースですか。



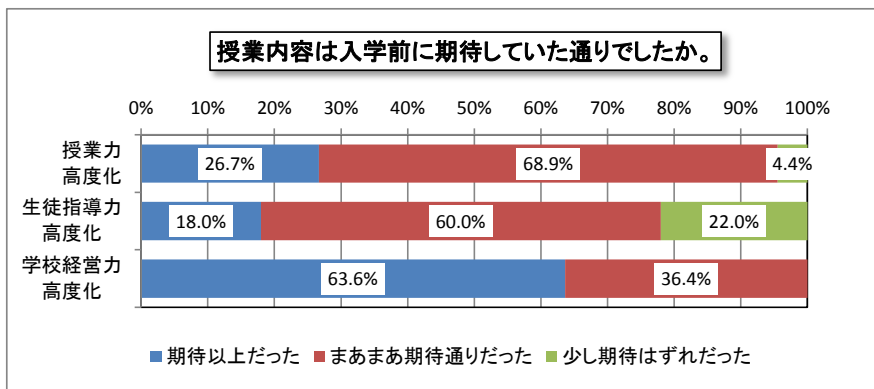
(2) あなたの回生はどれですか。



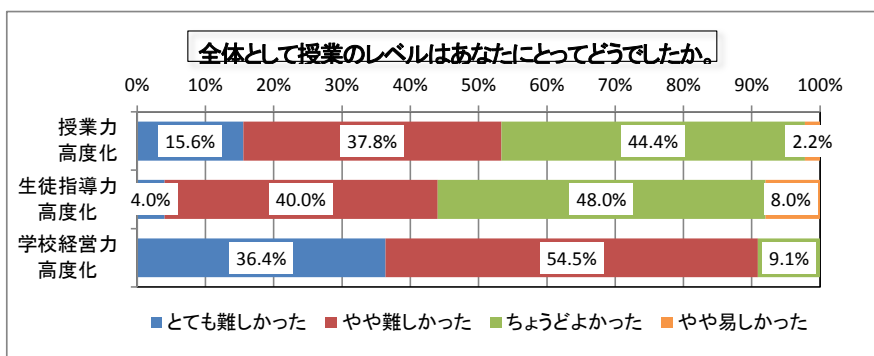
(3) あなたは現職ですか、それともストレートマスターですか。



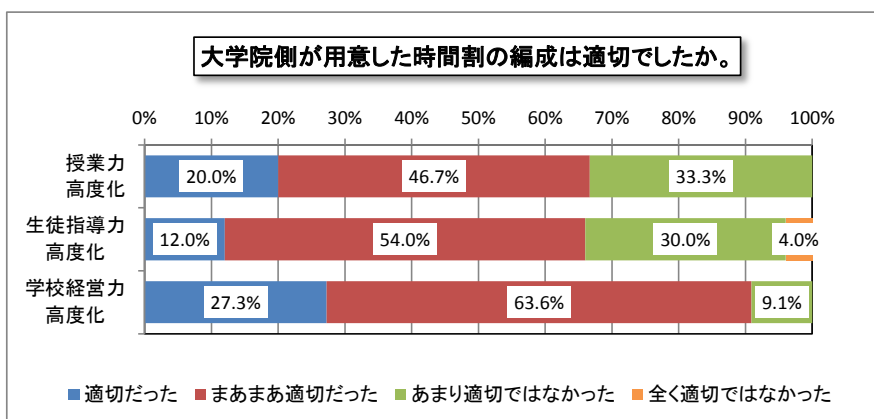
(4) 授業内容は、入学前に期待していた通りでしたか。



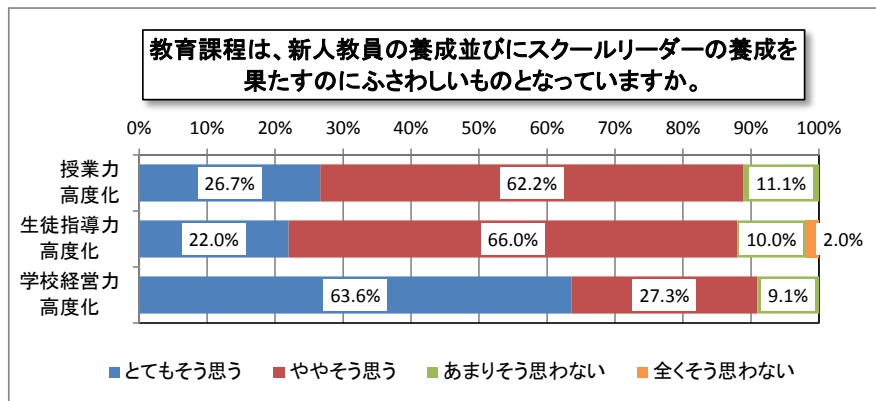
(5) 全体として授業のレベルはあなたにとってどうでしたか。



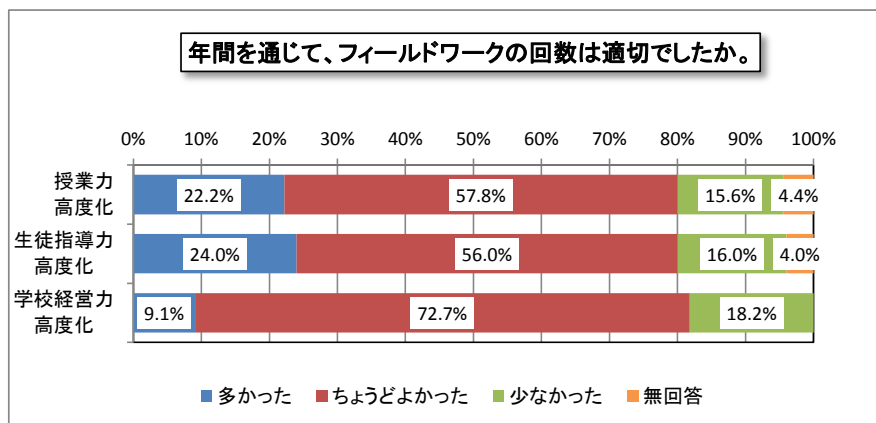
(6) 大学院側が用意した時間割の編成は適切でしたか。



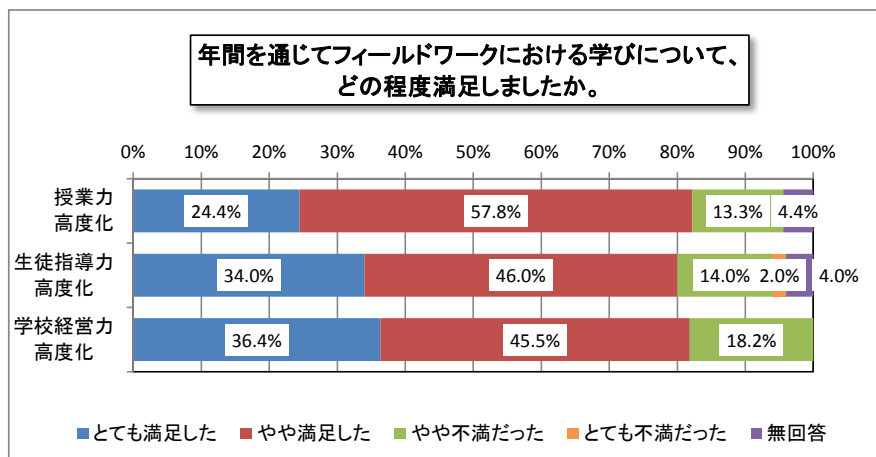
(7) 教育課程は、新しい学校づくりの有力な一員となりうる新人教員の養成並びにスクールリーダーの養成を果たすのにふさわしいものとなっていますか。



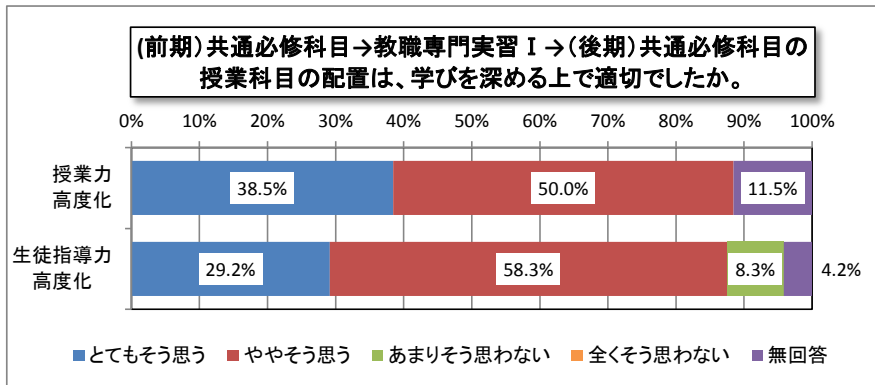
(8-1) 年間を通じて、フィールドワークの回数は適切でしたか。



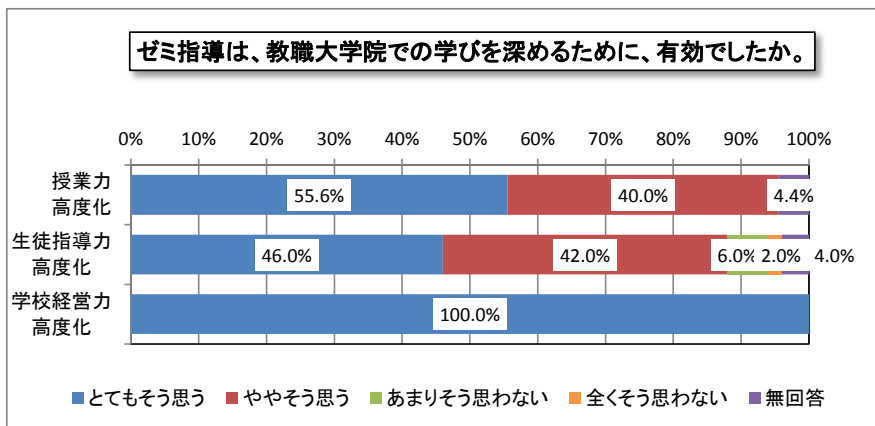
(8-2) 年間を通じてフィールドワークにおける学びについて、どの程度満足しましたか。



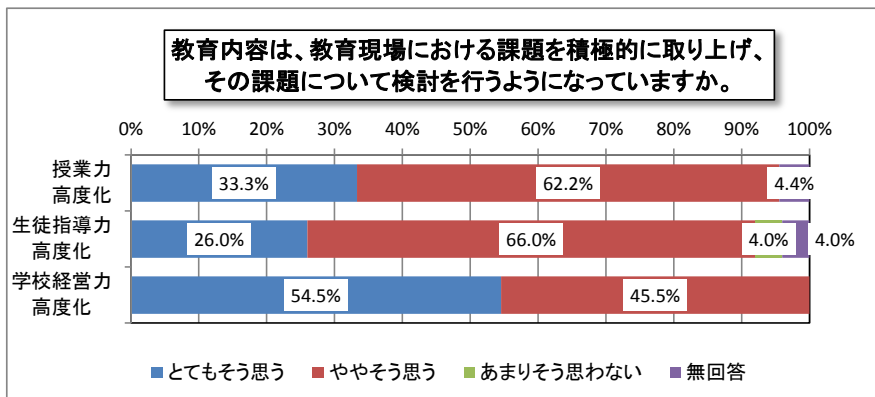
(9) (前期)共通必修科目→教職専門実習Ⅰ→(後期)共通必修科目の授業科目の配置は、
学びを深める上で適切でしたか。(M1ストレートマスター対象)



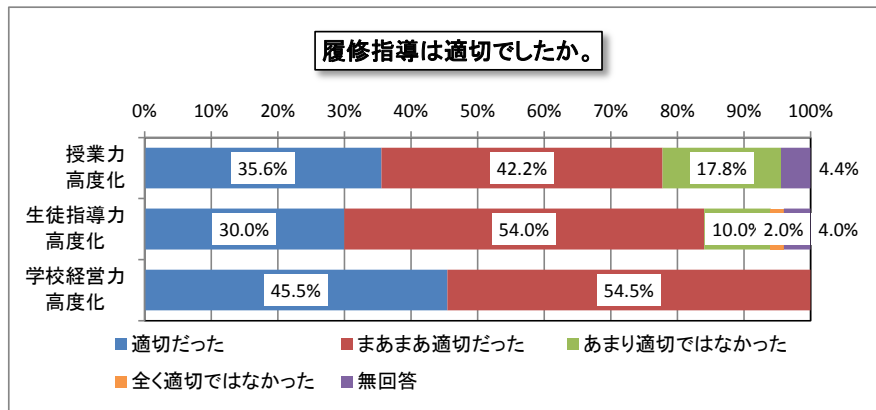
(10) ゼミ指導は、教職大学院での学びを深めるために、有効でしたか。



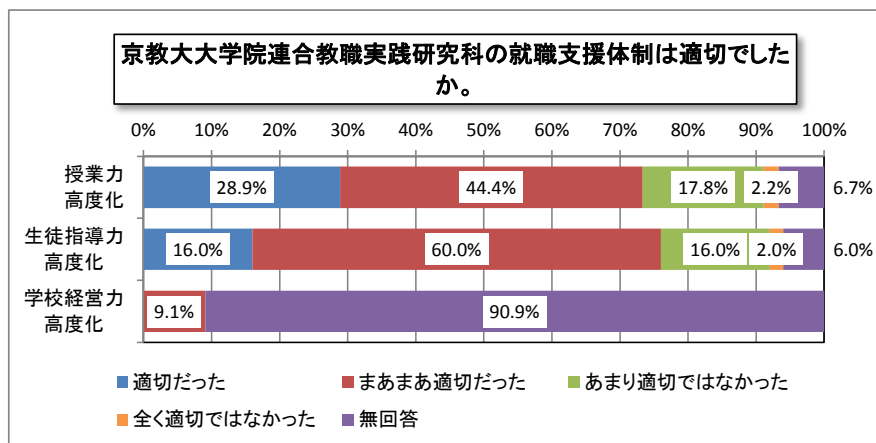
(11) 教育内容は、教育現場における課題を積極的に取り上げ、その課題について
検討を行うようになっていきますか。



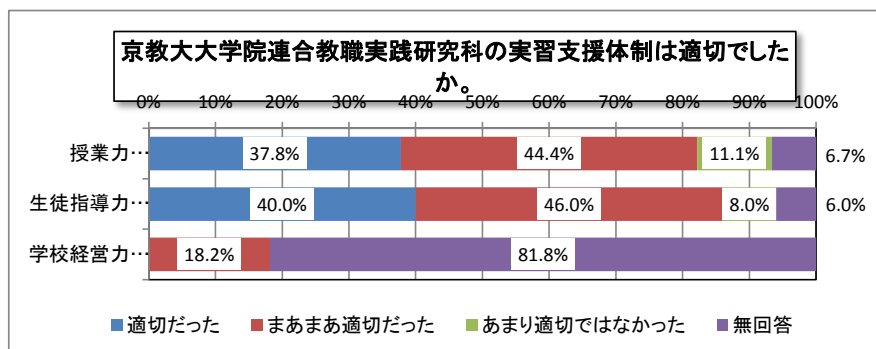
(12) 履修指導は適切でしたか。



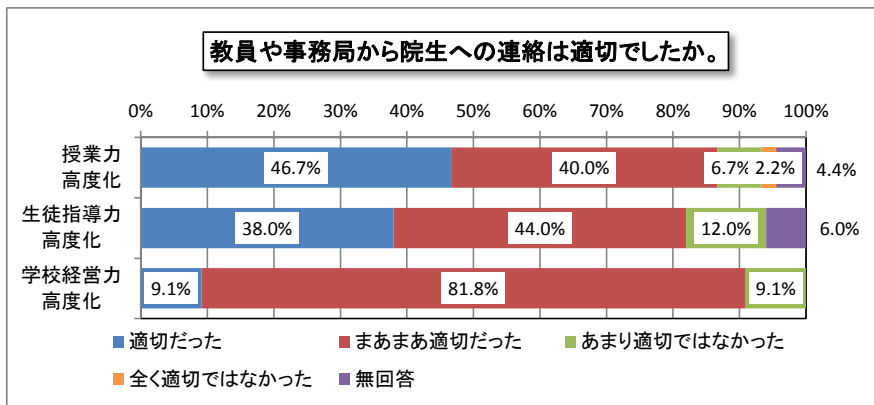
(13) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の就職支援体制は適切でしたか。



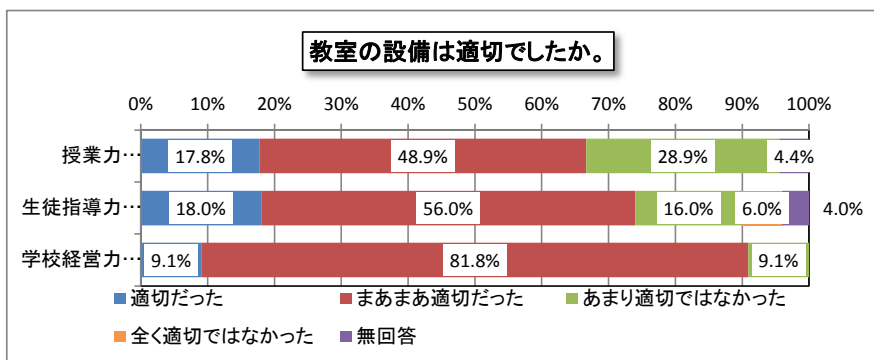
(14) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科の実習支援体制は適切でしたか。



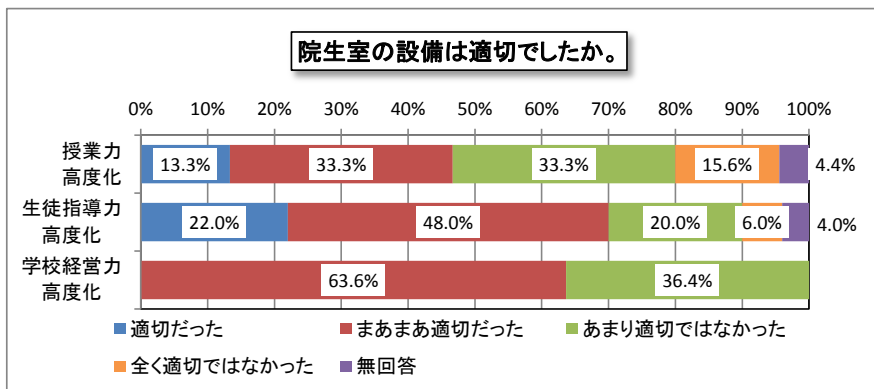
(15) 教員や事務局から院生への連絡は適切でしたか。



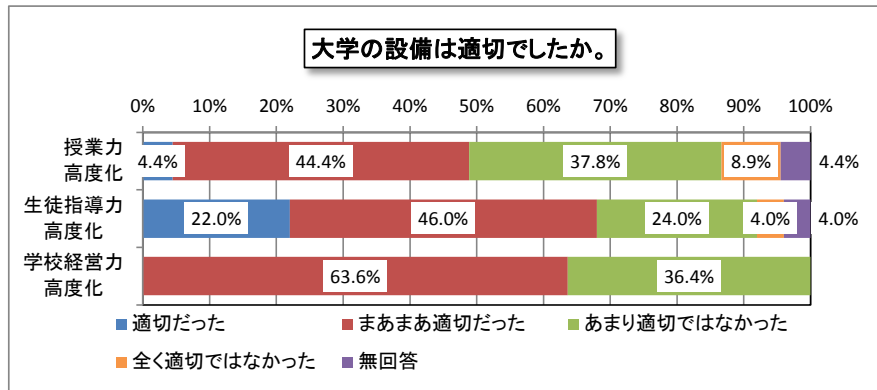
(16-1) 教室の設備は適切でしたか。



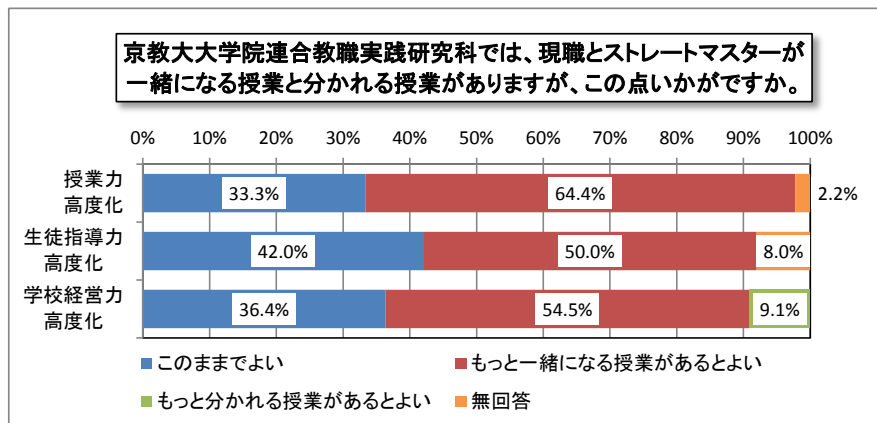
(16-2) 院生室の設備は適切でしたか。



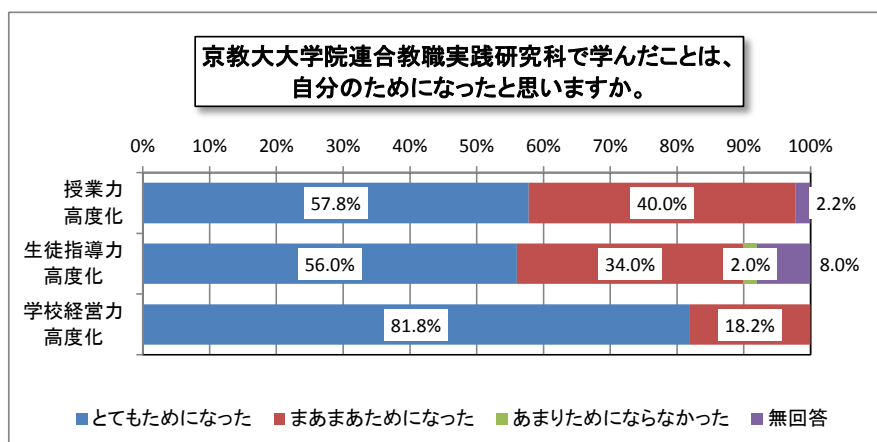
(16-3) 大学の設備は適切でしたか。



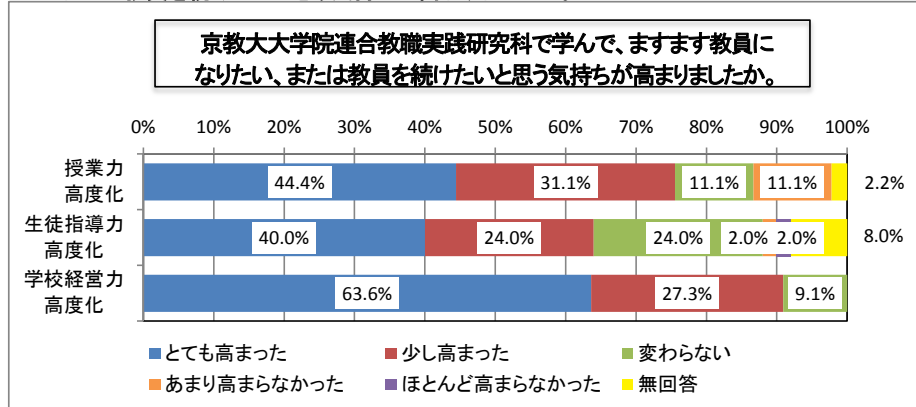
(17) 京教大大学院連合教職実践研究科では、現職とストレートマスターが一緒になる授業と分かれる授業がありますが、この点いかがですか。



(18) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んだことは、自分のためになったと思いますか。



(19) 京都教育大学大学院連合教職実践研究科で学んで、ますます教員になりたい、または教員を続けたいと思う気持ちが高まりましたか。



(20) 知り合い(後輩や職場の同僚等)から、京都教育大学大学院連合教職実践研究科への入学について聞かれたら薦めますか。

